

# 〈 独り でいること〉 の社会倫理

～ 孤独と孤立の問題性を問い直す

討論者

森山花鈴

(南山大学社会倫理研究所第一種研究員／  
法学部准教授:政治学、政策過程研究、自殺対策研究)

司会者

奥田太郎

(南山大学社会倫理研究所第一種研究員／  
人文学部教授:倫理学、応用倫理学)

創世記2章18節における「人が独りであるのはよくない」という神の言葉は、人にとって孤独と孤立が人類誕生以来の重大問題であることを示しているように思える。現代の日本においても、長らく人々の紐帯を下支えしてきた様々なものが脆弱化するなかで、2024年4月1日に孤独・孤立対策推進法が施行され、孤独と孤立が国や地方自治体の取り組むべき社会課題として明確に位置づけられることになった。2020年春以降の世界的なコロナ禍もまた、問題の深刻さを私たちに実感させた出来事であった。しかし、孤独や孤立は、思想的には言祝がれることも少なくない。たとえば、哲学者・三木清は「孤独について」という試論のなかでこう述べている。「孤独は山になく、街にある。一人の人間にあるのではなく、大勢の人間の「間」にあるのである。『あるいは、「孤独において私は対象の世界を全体として超えてある』とさえ語られたりもする。政策的な流れが定まったこのタイミングで今一度、人が人とともに生きることにおいて、孤独と孤立はいかなる意味で問題なのか、つまり、〈独りでいること〉の社会倫理をじっくりと考える必要があるだろう。

本シンポジウムでは、精神医学、教育、宗教といった異なる観点から、孤独と孤立の問題性を改めて問い直し、参加者諸氏とともに、私たちがとらえる孤独と孤立の意味について、より掘り下げて議論してみたい。

主催:南山大学社会倫理研究所  
共催:上智大学生命倫理研究所

2024年 8月1日(木)

14:00-17:30 (受付開始13:30)

南山大学  
R棟4階R49教室



第一報告

「一人だけど寂しくない～健康の視点から個立社会を考える～」

太刀川弘和

(筑波大学医学医療系災害・地域精神医学教授:  
精神医学、自殺対策、災害メンタルヘルス)

第二報告

「ハンナ・アレントにおける“一人であること”の多層性  
～教育における「孤独」問題への一考察～」

石神真悠子

(東洋英和女学院大学人間科学部任期制嘱託講師:  
教育哲学、アレント研究)

第三報告

「一人でいることと、死者との継続する絆」

佐藤啓介

(上智大学大学院実践宗教学研究科教授:宗教哲学、死生学)

# 〈 独り 〉 であること の 社会倫理

～ 孤独 と 孤立 の 問題性 を 問い 直す

## 講演概要 & 講演者プロフィール

### 第3報告

Keisuke  
Sato  
佐藤 啓介

### 一人であることと、 死者との継続する絆

死別等によって一人となってしまった苦しみに対して、近年、「死者との継続する絆」を構築することの意義が論じられることが多い。近年では、故人をAIで再現し、コミュニケーションを図ることすらも可能になりつつある。一人であることを、死者とともにいるという観点から考え直してみたい。

#### プロフィール

##### 〈略歴〉

京都大学大学院文学研究科博士後期課程修了。博士(文学、京都大学)  
聖学院大学人文学部助教、准教授、南山大学人文学部准教授を経て、2021年より現職。

##### 〈専門領域〉

宗教哲学、死生学

##### 〈主要著作〉

「死者と苦しみの宗教哲学」晃洋書房、2017年。「死者AIをめぐる倫理のための理論的基盤を考える」『宗教と倫理』22、2022年、57-70頁。「『死者の尊厳』の根拠——下からの死者倫理の試み」『宗教哲学研究』36、2019年、29-43頁。

### 第2報告

Mayuko  
Ishigami  
石神 真悠子

### ハンナ・アレントにおける “一人であること”の多層性 ～教育における 「孤独」問題への一考察～

教育現場において、「孤独」や「ひきこもり」であることは、しばしば「問題」とみなされる事が多いが、その問題性の内実とは何だろうか。ハンナ・アレントの思想を手がかりに、孤独と孤立の問題性について考えたい。

#### プロフィール

##### 〈略歴〉

千葉大学教育学部卒業、杉並区教育委員会社会教育センター、東京大学教育学研究科博士課程満期取得退学後、2022年10月より現職。

##### 〈専門領域〉

教育哲学、アレント研究

##### 〈主要著作〉

「ハンナ・アレントにおける“一人である”こと の 多層性: 政治的主体化へ向けて」『東京大学大学院教育学研究科基礎教育学研究室 研究要 紀 要』第45号、pp.71-80、2016年。「Rethinking Education as “the Social” : How “the social” be political, and in what scene?」, The University of Tokyo Working Paper Series in Young Scholar Program, No.9, Center for Excellence in School Education, Graduate School of Education, 2016(石神真悠子、江川愛都沙、江口怜、田中智輝、鈴木康弘、李舜志による共著)

### 第1報告

Hirokazu  
Tachikawa  
太刀川 弘和

### 一人だけど寂しくない ～健康の視点から 個立社会を考える～

社会的孤立と孤独の心理学的・精神医学的検討は不十分である。我々は最近、社会的孤立よりも主観的孤立感や孤独感が、抑うつ症状、自殺念慮と関連することを見いだした。現在行っている研究成果をもとに孤立と孤独の違いと健康への影響を考察する。

#### プロフィール

##### 〈略歴〉

1993年、筑波大学医学専門学群卒業、筑波大学附属病院精神神経科入局  
2002年、筑波大学臨床医学系精神医学講師以後、茨城県精神保健福祉センター相談援助課係長、茨城県立友部病院医務局特任救急部長、第三医療局長、筑波大学保健管理センター所長を経て2019年より現職。他に、茨城県立こころの医療センター地域・災害支援部統括部長、筑波大学附属病院精神医療・自殺対策連携センター部長を務める。

##### 〈専門領域〉

精神医学、自殺予防、災害メンタルヘルス

##### 〈主要著作〉

『つながりからみた自殺予防』人文書院、2019年。日本自殺予防学会監修『HOPEガイドブック: 救急医療から地域へつなげる自殺未遂者支援のエッセンス』へるす出版、2018年。トーマス・ニーダークローテンターラー、スティープン・スタック編著(高橋あすみの監訳)『メディアと自殺: 研究・理論・政策の国際的視点』人文書院、2023年など。

